

# JCHOうつのみや病院 看護師キャリアラダー

レベル		I	II	III	IV	V	
経験年数目安		1年目	2～3年目	4～5年目	5～7年目	6～10年目以上	
JCHOのミッションに基づく統合的な目標		◇指導の下で安全な看護の提供ができる ◇組織の一員であることを自覚し、施設を利用するすべての人、協働するすべての仲間に丁寧な対応ができる	◇地域におけるジ施設の機能を理解できる ◇地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考えて行動につなげることができる	◇地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に取り組むことができる	◇患者および地域の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる	◇理患関係構築と連携を図り、ケアを継続できる ◇患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる	
組織的役割遂行能力	レベルの定義	◇JCHO及び自施設の理念と使命を理解し、組織の一員としての自覚を持って行動する	◇組織の一員として自身の役割を理解し、所属部署の目標を意識して行動する	◇所属部署の目標達成に向けて、チームメンバーに指導でき、チーム活動に主体的に取り組む ◇所属部署の係や委員会活動等のなかで、部署の問題や課題を明確化する	◇所属部署の目標に基づいてリーダーシップを発揮し、チーム活動を実践する ◇委員会や院内の活動に課題や目的をもって参加し、建設的な思考を養うことができる	◇自施設の目標達成に向けて組織改革に必要な建設的な思考力を養い具体策の提案、実践ができる	
	[レベル毎の目標]	◇地域社会における自施設の役割・機能を理解する ◇自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける ◇組織が示す収益向上と費用削減のための具体的な取り組みへ協力をする	◇地域包括ケアシステムの概要を理解する ◇地域医療及び地域包括ケアチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動に繋げる ◇看護チーム内での役割を遂行する ◇業務管理を自立して行ない、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	◇地域医療及び地域包括ケアのチームの一員として、地域の人々の生活上のニーズを把握し、積極的に問題解決に参画する ◇日々の看護業務におけるリーダーとしての役割を遂行する ◇部署に関連する診療報酬制度等を理解し、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	◇地域住民の多様なニーズを把握し他職種と統合したケアを主体的に提供する ◇看護チームや委員会等のリーダーとしてリーダーシップを発揮する ◇保健医療福祉の動向を踏まえ、組織が示す収益向上と費用削減のための取組みの必要性を理解し、主体的に実践する	◇地域住民の多様なニーズを把握し、地域住民の療養生活を支えるため、関連する施設や他職種間と統合したケアを提供できるようリーダーシップを発揮する ◇専門性を発揮し、看護チームの管理・教育的役割モデルとして行動する ◇保健医療福祉の動向を踏まえ、組織の収益向上と費用削減のための建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する	
	医療安全	◇医療・看護における安全が理解できる口 ◇指導のもとインシデント・アクシデントレポートを作成し、報告することができる	◇医療安全管理マニュアルに基づき安全に留意した行動がとれる ◇インシデント・アクシデント発生時、対応及び報告が適切に行える	◇予見に基づいた事故防止策がとれ、メンバーに指導できる ◇インシデント・アクシデント内容の把握・分析、再発防止策を講じることができる ◇インシデント・アクシデント発生時にリーダーシップをとり、マニュアルに準じた適切な対応をすることができる	◇安全かつ快適な療養環境の整備・提供について考え、部署において役割モデルになる ◇部署内で発生したインシデント・アクシデントの内容を把握し、助言を受けながら原因・要因分析をし、再発予防策の立案に対し指導的に関わることができる	◇部署内のインシデント・アクシデントの傾向を分析し、問題解決に向けた再発防止策の提言及び実践することができる ◇部署内で発生したインシデント・アクシデントの内容を把握し、原因・要因分析をし、再発予防策の立案に対し指導的に関わることができる ◇部署内の医療安全に係る看護の質向上について取り組むことができる	
	感染	◇標準予防策と経路別予防策を理解し、予防策の遵守ができる	◇感染防止管理体制について理解し、感染防止マニュアルを遵守した行動がとれる ◇医療関連感染を理解し、必要な感染防止策が遵守できる	◇部署内の感染防止対策の推進者としてロールモデルとなる ◇部署内の感染管理に関する問題を提起できる	◇部署内の感染管理に関する問題解決に向けた具体的な対策を立案し、実践できる ◇部署内の感染防止対策に係る指導的役割がとれる	◇部署内の感染管理に係る看護の質向上について取り組むことができる ◇部署内の感染管理に係る意識向上のための教育・指導ができる	
看護の核となる実践能力	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い指導を受けながら安全に看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	自ら状況を判断しケアの受け手に適した個別的な看護を実践する	理論的知識と実践的知識を統合した看護を実践し役割モデルになることができる	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
	ニーズを捉える力	[レベル毎の目標]	助言を得てケアの受け手の状況(場)のニーズを捉える	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズを捉える	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズを捉える	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズを捉える
		[行動目標]	◇助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◇ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	◇自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◇得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題を捉えることができる	◇ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別的なニーズを踏まえ必要な情報収集ができる ◇得られた情報から優先度の高いニーズを捉えることができる	◇予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◇意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	◇複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ◇ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	[レベル毎の目標]	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた個別的な看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		[行動目標]	◇指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる ◇指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる ◇看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	◇ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ◇ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ◇ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	◇ケアの受け手の個性にあわせて、適切なケアを実践できる ◇ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる ◇ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	◇ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる ◇幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	◇ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる ◇複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	[レベル毎の目標]	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力をひきだし連携に活かす
[行動目標]		◇助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる ◇助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる ◇助言を受けながらケアに必要な判断した情報を関係者から収集することができる ◇ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる ◇連絡・報告・相談ができる	◇ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる ◇関係者と密にコミュニケーションをとることができる ◇看護の展開に必要な関係者を特定できる ◇看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換ができる	◇ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ◇ケアの受け手とケアについて意見交換できる ◇積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	◇ケアの受け手がおかれている状況(場)を広く捉え、結果を予測しながら他職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ◇多職種間の連携が機能するように調整できる ◇多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	◇複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる ◇多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる ◇関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる ◇目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	
意思決定を支える力	[レベル毎の目標]	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、他職種も含めた調整的役割を担うことができる	
	[行動目標]	◇助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	◇ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ◇確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	◇ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ◇ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる ◇ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	◇ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	◇適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる ◇法のおよび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	
自己教育研究能力	レベル毎の定義	自己の課題を指導によって発見し、必要な知識・技術を主体的に学習する	日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得に向けた学習活動を展開する	実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする 組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める	組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像が描ける 専門領域や高度な看護技術の習得に主体的に取り組める	地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する 専門領域や高度な技術等についての自己の学習活動を推進する	
	[レベル毎の目標]	◇必要な知識・技術を主体的に学習し、自己の学習課題を指導によって発見する	◇看護理論を用いて、自己の看護を振り返ることができる ◇研究的視点をもって、根拠に基づく看護実践に必要な文献検索ができる ◇看護の質向上を図り、先行研究を活用することができる ◇自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	◇実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行ない、自己の実践の振り返りをする ◇組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める ◇看護の質を向上するために研究結果を活用する	◇自己のキャリア形成について考え、能力開発に主体的に取り組むことができる ◇課題解決や看護の質向上を図り研究活動を展開する ◇部署内の教育において指導的役割がとれる(教育計画の立案・実施・評価)	◇主体的に専門領域や高度な看護技術等について教育活動を展開することができる ◇研究活動の実践及び継続ができる ◇部署内の研究活動を支援することができる ◇自己のキャリアの方向性を明確にし、キャリア形成のための学習を継続的に	
倫理的実践能力	レベル毎の定義	看護倫理綱領の内容を意識し行動することができる	倫理綱領を理解し、助言を受けながら倫理的問題に気づくことができる	看護実践を通して、倫理原則に基づいた倫理的問題に気づくことができる	医療チームの一員として、患者・家族の倫理的問題に介入することができる	医療チームの一員として、倫理的問題の解決に向け、多職種を含めた調整的役割を担うことができる	
	[レベル毎の目標]	◇看護倫理綱領の内容を理解することができる ◇看護専門職としての自覚と責任ある行動をとることができる ◇倫理的問題に気づくことができる	◇日々の看護実践で疑問点を見出し、倫理的問題に気づくことができる ◇患者・家族の思いや考え、希望を確認し看護計画に反映することができる ◇医療倫理の4原則を理解することができる	◇専門職人として自覚を持ち、倫理原則に基づいて看護実践の振り返りができる ◇看護倫理の6原則を基に、患者・家族に生じている倫理的問題を明確にし、チームで共有することができる	◇患者・家族に生じている倫理的問題について、倫理原則に基づいて状況をアセスメントし倫理的問題を明確にすることができる ◇臨床倫理4分割法を理解し、倫理的問題に対する介入を実践することができる	◇臨床倫理の4分割法を用いて倫理的問題の顕在化を図り、適切なリソースの活用や、相談、コンサルテーションを実施できる ◇患者・家族の倫理的問題に介入するチームメンバーに、教育的に関わることができる ◇患者・家族に生じている倫理的問題について、他職種を交えたカンファレンスを開催することができる	